

**学部規模でのポジティブ行動支援（SWPBS）
「中学部行動目標設定表」を用いた教育実践
～チャレンジしよう編～**

1 中学部の現状

(教育課程)

1) 中学校に準ずる教育課程

- ・ 肢体不自由単一学級
- ・ 病弱単一学級

2) 知障代替の教育課程

- ・ 肢体不自由重複学級
- ・ 知的障がい学級
- ・ 病弱重複学級

3) 自立活動を主とした教育

- ・ 肢体不自由重度重複学級
- ・ 病弱学級の重心病棟学級

(令和3年度) 10学級 生徒数 47名
教員 31名

- ・ 3つの教育課程があり、障がい種も多い

- ・ 学部教員全員での共通理解や支援体制構築が大切



平成30年度より
ポジティブ行動支援 (SWPBS)
を実施

これまでの実践研究の流れ

H30年度～ 登校支援

- ・ 不登校生徒と担任を学部全体で支える支援体制作り
- ・ 生徒が安心して自信をもって楽しく過ごせる学部づくり

グループで話し合いを進めたり支援方法を検討したりして、共通理解を図るシステムの定着



学部全体（教員・生徒）で、共通の目標を掲げて実践に取り組むことを決定



R元年度 学部全教員で話し合いを行い、
【中学部版】 行動目標設定表 を作成

2 本校中学部におけるSWPBS

令和2年度・3年度～ 全体支援

平成30年度～ 登校支援

組織的アプローチで取り組む

第1層支援
学校・学級規模
全体支援
(全生徒対象)

第3層支援
特別な支援を必要とする個人

第2層支援
配慮の必要な一部の生徒



【中学部版】 行動目標設定表

3つの大切

「ルールを守ろう」

「すてきな伝え方をしよう」

「チャレンジしよう」

令和3年度は『中学部版 行動目標設定表』の「3つの大切」の中から，“チャレンジしよう”をテーマとして，指導実践に取り組んだ。

	ルールを守ろう		すてきな伝え方をしよう		チャレンジしよう	
授業中	知的 病弱 肢体	・時間を守ろう (始まり・終わり・作業時間) ・決められた活動をしよう	知的 病弱 肢体	・「です」「ます」を使おう ・援助要求をしよう	知的 病弱 肢体	・自分で目標を決めて達成しよう ・自分の意思を伝えよう (挙手・カード選択)
	自主	・指示や促しに応じて活動に参加しよう	自主	・対象物(教材等)に手を出そう ・発声しよう	自主	・選択をしよう (タブレット・具体物に手を伸ばす・視線を向ける)
給食	知的 病弱 肢体	・適切な姿勢で食べよう ・手や口を清潔にしよう	知的 病弱 肢体	・「いただきます」「ごちそうさま」を伝えよう ・手伝わってもらったら感謝の気持ちを伝えよう	知的 病弱 肢体	・苦手な食材も食べてみよう ・自分から準備や後片付けをしよう
	自主	・完食しよう	自主	・食べたい気持ちを伝えよう (手を伸ばす・視線を向ける)	自主	・味や匂いを感じよう ・苦手な食材も食べてみよう
休み 時間	知的 病弱 肢体	・トイレをすませて遊ぼう ・人と適切な距離をとろう	知的 病弱 肢体	・「ありがとう」「ごめんね」「一緒にしよう」を伝えよう ・教室から出るときは行き先を伝えよう (トイレ・次の授業)	知的 病弱 肢体	・いろいろな友達や先生と関わろう ・いろいろな遊びをしよう
	自主	・トイレに行こう ・水分補給をしよう	自主	・遊びを選択しよう (手を伸ばす・視線を向ける) ・教員の働きかけに対して応答しよう (発声・目をぱちぱち・快の表情)	自主	・遊びを選択しよう (手を伸ばす・視線を向ける) ・教員の働きかけに対して応答しよう (発声・目をぱちぱち・快の表情)
登下校 (朝の 会・帰りの 会)	知的 病弱 肢体	・朝・帰りの準備を時間までにしよう ・話をしている人の方を向こう	知的 病弱 肢体	・名前を呼ばれたら返事をしよう ・友達や先生に「おはようございます」「さようなら」を伝えよう	知的 病弱 肢体	・自分でできることを増やそう ・目標を決めたり振り返ったりしよう
	自主	・朝の会・帰りの会で係の仕事をしよう (スイッチ)	自主	・あいさつをしよう (発声、ハイタッチ、笑顔、アイコンタクト)	自主	・クラス外の人とあいさつをしよう

※令和2年度は，“すてきな伝え方をしよう”をテーマとして，指導実践に取り組んだ。

3 令和3年度の実践研究の目的・方法

★目的

中学部全生徒の，主体的に自分の役割を果たしたり新しいことにチャレンジしたりするスキルの向上を目指す

教員のスキルアップを図る

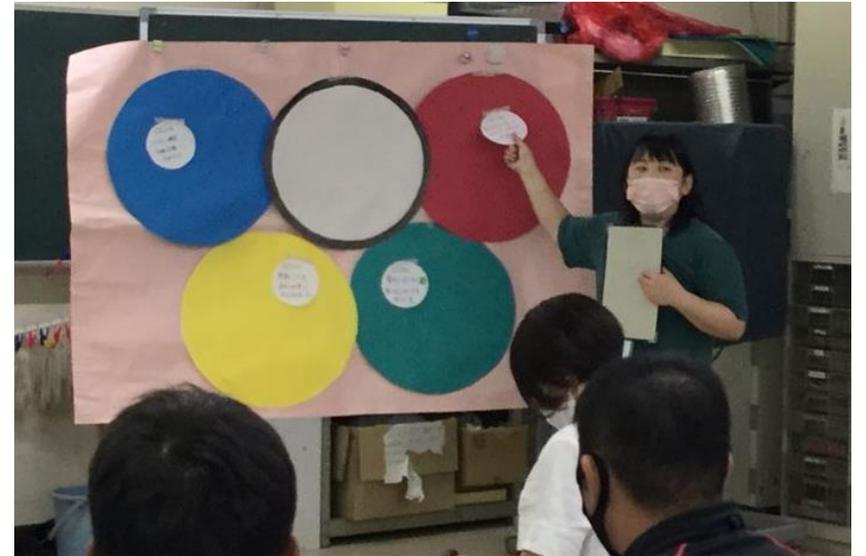


★方法

- ①全教員が行動目標設定表より「チャレンジしよう」に関連する項目で，指導目標を設定して指導実践に取り組む
教員間で共通理解を図って，全生徒へ支援を行う
- ②生徒に，良い行動を具体的にフィードバックする
- ③研修で支援法を学んだり事例研究に取り組んだりする

4 実践研究の方法①

- ・後期「個別の指導計画」において、全教員が行動目標設定表より、「チャレンジしよう」に関連する項目で指導目標を設定して指導実践に取り組む。
- ・教員間で共通理解を図って、全生徒へ支援を行う。



☆指導実践の流れ

月 日	題 目	内 容
9月中旬 ～10月上旬	・ 指導計画立案シートを作成	・ 個々に指導計画立案シートを作成する。
10月14日	・ 事例検討会（1時間）	・ 個々に指導計画チェックリストを使い、指導目標や指導の手立ての検討（チェック）を行う。 ・ グループで事例の検討を行う。（1事例） ・ グループで話し合ったことを3分程度で全体に発表し、情報の共有を図る。
12月上旬	・ グループ別事例検討会（30分～40分）	・ 10月14日の事例検討会で検討した事例について、進捗状況を確認する。必要であれば、アイデアを出し合う。 ・ 他に検討したい事例があれば、アイデアを出し合う。 ・ 時間があれば、他の事例の進捗状況の報告を行う。
12月中旬	・ 学部事例報告会（40分）	・ グループ別事例検討会で話し合ったことを、それぞれのグループから5分程度で発表し、情報の共有を図る。
2月3日	・ 学部研修会（50分）	・ 代表事例の結果報告を行う。

☆指導計画立案シートを作成（9月中旬～10月上旬）

- 指導を始める前に、指導計画立案シートⅠ・Ⅱを作成した。
- 作成した指導計画立案シートⅠ・Ⅱは、グループごとにパワーポイントのファイルにまとめ、校内のパソコン共有フォルダに保存し、情報を共有できるようにした。

※グループ

- 自立主
- 肢体・病弱
- 知的1年生
- 知的2年生
- 知的3年生

の5グループ

指導計画立案シート様式Ⅰ

キャリア教育の領域と系列（ Ⅰ－③ 身辺処理 ）
 行動目標設定表（ 自分でできることを増やそう ）
 担当教員： 教員A

学年・生徒氏名（イニシャル）： ○年・ B

後期の指導目標：給食台を、布巾で拭き残しなく拭くことができる。

指導場面： 昼休み（給食後）

A（環境設定や教示）

- ・教える手順を時系列に書く
- ・修正の仕方を書く 等

・給食台の拭き方は、とくしま特別支援学校技能検定（ビルメンテナンス・テーブル拭き部門）の手順を参考とする。

○ステップ4（11月17日～12月8日）

- ・ステップ4に入る前日に、11月17日からチェックリスト（机毎に自己評価と教員評価をする用紙）を使って台拭きに取り組むことを、チェックリストを提示して説明する。
 - ・チェックリストに従って、給食台を拭くことができるか見守りながら確認する。
 - ・自己評価を終えたチェックリストを教師の所に持ってきたら、○、△、×を記入して、できたかどうか伝える。
 - ・できているところとできていなかったところを具体的に伝えたり、チェックリストにコメントを書いたりする。
- ※チェックリストの評価基準
 ○・・・よくできた、△・・・少しできた、×・・・できなかった

B（★短期目標）

- ・指導の段階ごとの目標を書く
 （最終的に後期の指導目標が達成するよう目標をステップアップしていく）

①印ありで、手順書に沿って、3台の机を、布巾で拭き残しなく拭くことができる。

②印なしで、手順書に沿って、3台の机を、布巾で拭き残しなく拭くことができる。



目標を変更

③印なしで、チェックリストに従って、3台の机を、布巾で拭き残しなく拭くことができる。

C（結果）

- ・強化の仕方

・「上手に拭けたね」
 「バッチリ（OKサイン）」
 （褒め言葉）

・手順通り正しく拭けていたら、チェックリストに○を記入する。

・チェックリストに英語で称賛コメントを書く。
 （GOOD・NICE・PERFECT等）

教材：チェックリスト

学年・生徒氏名（イニシャル）： ○年・ B

担当教員： 教員A

★短期目標：印なしで、チェックリストに従って、3台の机を、布巾で拭き残しなく拭くことができる。

指導場面： 昼休み（給食後）

【指導期間】

【達成基準】

【中止・再考の基準】

・ステップ4
(11月17日から12月8日)

教師の見守りのもと、印なしで、チェックリストに沿って、3台の机を、布巾で拭き残しなく拭くことが5回連続できたら達成とする。

0点が5回連続続いたら支援の方法を再考する。

【記録表】

記録の取り方：声かけや指さしなしでできた・・・1点，声かけや指さしありでできた・・・0点，記述

11月17日水	1	
11月19日金	0	
11月22日月	0	チャレンジしよう表彰
11月24日水	1	文化祭予行
11月25日木	0	
11月26日金	1	
11月30日火	1	

12月1日水	1	
12月2日木	1	
12月3日金	1	
12月6日月	1	
12月7日火	1	
12月8日水	1	

☆事例検討会について (10月14日)

(1) 個々に立てた指導計画立案シート1について、指導計画チェックリストを使い、指導目標や指導の手立ての検討(チェック)を行った。



① 指導計画立案シートIを書き終えたら、A(環境設定や教示)、B(短期目標)、C(結果)を確認しましょう。

○・・・できている,できそう △・・・もう少し見直しが必要

B(短期目標)	チェック欄
・2~3週間で達成できそうな目標である。	
・目標が具体的である。	
・設定した目標に対し、記録をとることができる。	
A(環境設定や教示)	
・教える手順を時間の流れにそって書くことができている。	
・教える手順を具体的に書くことができている。	
・考えた環境設定や手順で指導をすると、目標を達成することができそうである。	
・生徒の実態にあった教材や、目標達成につながる教材を準備することができている。	
C(結果)	
・結果(強化の仕方)を具体的に書くことができている。	
・目標達成につながる結果を書くことができている。	

② △がついた項目については、お近くの先生、学級、グループ等で話し合うと、支援に生かせるアイデアをもらうことができます。研究課の方にもいつでもお声かけください。一緒に考えさせていただきます。

☆事例検討会について (10月14日)

(2) 指導目標や指導の手立ての設定に悩んでいる方，指導を進めているけれど指導が順調に進まない方に，グループで支援の方法のアイデアを出し合い，事例の検討を行った。

※グループ：自立主，肢体・病弱，知的1年生，知的2年生，知的3年生 の5グループ

学年・組： 年 組， 名前（イニシャル表記）：
指導教員：
後期の指導目標：
①短期目標： (短期目標を変更した方がいいと思われる場合は，短期目標をもう一度検討しましょう。グループで出たアイデアを書きましょう。)
☆短期目標が妥当かどうか(2～3週間で達成できる目標であるかどうか)
☆短期目標が具体的かどうか
②目標達成のための支援のアイデア (グループで出たアイデアを書きましょう。)
☆環境設定や教示の仕方
☆教材
☆強化の仕方
③備考

※必要な項目のみにご記入ください。全ての項目に記入しなくて大丈夫です。
※時間があればロールプレイもしてみてください。

☆事例検討会について (10月14日)

(3) グループで話し合ったことを3分程度で全体に発表し、
情報共有を図った。



☆指導計画チェックリストを集計した結果①

○・・・できている, できそう, △・・・もう少し見直しが必要, 数字は人数

	○	△	記入なし
2～3週間で達成できそうな目標である	1 3	8	5
目標が具体的である	2 2	0	4
設定した目標に対し, 記録をとることができる	2 0	2	4
教える手順を時間の流れにそって書くことができている	2 3	3	0
教える手順を具体的に書くことができている	2 3	3	0
考えた環境設定や手順で指導をすると, 目標を達成することができそうである	2 4	2	0
生徒の実態にあった教材や, 目標達成につながる教材を準備することができている	2 4	0	2
結果(強化の仕方)を具体的に書くことができている	2 0	5	1
目標達成につながる結果を書くことができている	2 1	4	1

回収率 100%, 26/26人

☆指導計画チェックリストを集計した結果②

△（もう少し見直しが必要）が少ない

- 目標が具体的である
- 設定した目標に対し、記録をとることができる
- 生徒の実態にあった教材や、目標達成につながる教材を準備することができる
- 考えた環境設定や手順で指導をすると、目標を達成することができそうである
- 教える手順を時間の流れにそって書くことができる
- 教える手順を具体的に書くことができる

B（目標）

A（環境設定や教示）

△（もう少し見直しが必要）がやや多い

- 結果（強化の仕方）を具体的に書くことができる
- 目標達成につながる結果を書くことができる

C（結果）

“△がやや多い”
と“△が多い”に
なった項目に、
アプローチが
必要

△（もう少し見直しが必要）が多い

- 2～3週間で達成できそうな目標である

B（目標）

☆来年度に向けて

- 個別の指導計画の半期目標から，短期目標（2～3週間で達成できそうな目標）におろす仕方を学ぶ研修をするといいいのかもしれない。
- 好子を見つける研修をするといいいのかもしれない。

※好子：「行動の直後に出現すると，その行動の将来の生起頻度を上げる，刺激，出来事，条件のこと」

引用文献：杉山尚子，島宗理，佐藤方哉，リチャード・W・マロット，マリア・E・マロット，（1998）『行動分析学入門』産業図書 P.5

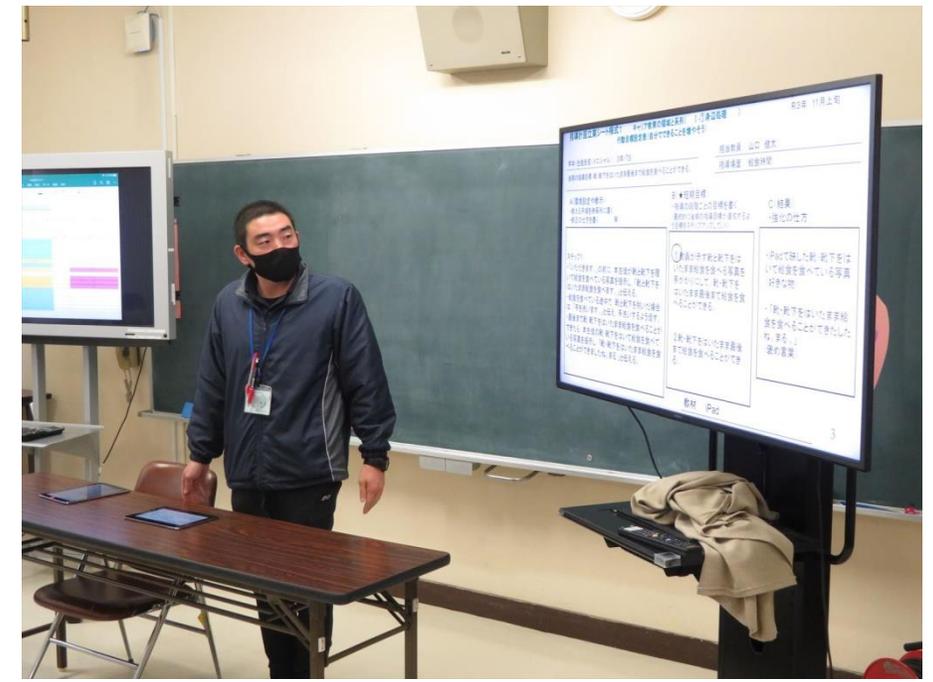
☆グループ別事例検討会について（12月上旬）

- （1）10月14日の事例検討会で検討した事例について，進捗状況を確認した。必要に応じて，支援のアイデアを出し合った。
- （2）他に検討したい事例について，支援のアイデアを出し合った。
- （3）時間が残ったグループは，他の事例の進捗状況の報告を行った。



☆学部事例報告会について (12月9日)

- グループ別事例検討会で話し合ったことを，それぞれのグループから5分程度で発表し，情報共有を図った。
- 発表内容
 - ①10月14日に検討した事例の進捗状況や結果について
 - ②他に話し合った事例について，支援のアイデアを発表



☆「チャレンジしよう」に関する
指導実践の評価アンケート(教員全27名)

R4.2.4現在

- ・達成した ◎ (23名)
- ・できることが多くなった ○ (4名)
- ・できるようになってきた △ (0名)
- ・できなかった □ (0名)

◎の達成率 85%



生徒のスキルアップにつながった

5 実践研究の方法①の結果

- ・後期「個別の指導計画」において、全教員が行動目標設定表より「チャレンジしよう」に関連する項目で指導目標を設定して指導実践に取り組む。



- ・個々に「チャレンジしよう」に関連する項目で、指導目標と指導の手立て等を考えて「指導計画立案シートⅠ・Ⅱ」に記入し指導実践に取り組むことができた。
- ・27の指導実践のうち、23の指導実践で目標達成となった。

- ・教員間で共通理解を図って、全生徒へ支援を行う。



- ・事例検討会、グループ別事例検討会、学部事例報告会で、個々の指導実践を検討したり進捗状況を確認したりして、教員間で共通理解を図って生徒の支援を行うことができた。

☆事例検討会，グループ別事例検討会，学部事例報告会 アンケート結果

- 少人数だったので意見や感想が言いやすかった。
- 様々な事例について話し合うことができ良かった。
- 事例の途中経過がお互いによく分かった。
- 事例対象生徒の様子を動画でチェックしながら細かく事例を検討することができ，その後の丁寧な指導法へとつながった。
- 自分の悩んでいることについて相談にのってもらった。色々な方向からアドバイスをいただくことができ，ありがたかった。
- 先生方のアドバイスや他の事例を知ることで，たくさんチャレンジしてみようと思うことができた。
- データの取り方や動画を撮る大切さ等を知ることができた。
- どの事例も，中学部全教員の学びとなる事例で大変勉強になった。
- 各グループの事例について共通理解を図ることができた。
- 教育課程別の取り組みを知ることができて良かった。
- 本校在籍年数や経験年数によって必要となる知識や情報が違うので，次はグループ別や目標別での研修があると良いと思った。

6 実践研究の方法②

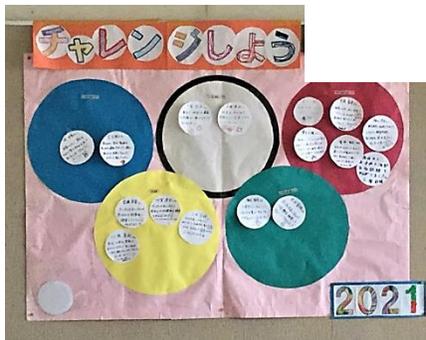
生徒に良い行動を具体的にフィードバックする

☆令和3年度

学部全教員の意見をふまえて、生徒への具体的なフィードバックの方法を決定

- ・賞のネーミング → チャレンジ大賞
- ・表彰の場面 → 集会（リモート）で受賞者の教室で表彰
- ・開催数と称賛人数 → 3週間に1回程度，1回に6～7名程度

- ・学部全体で共有するための掲示物等



- 学部共有のホール2か所に五輪の台紙を設置

☆ 「チャレンジ大賞」 受賞者の人数（昨年度と比較）

	R2年度 「すてきde賞」	R3年度 「チャレンジ大賞」
中学部生徒数（人）	47	47
受賞者（人）	32	47
受賞者の割合（%）	68	100

☆ 「チャレンジ大賞」 受賞者の感想



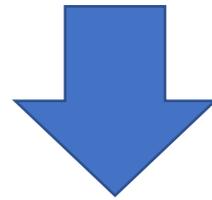
- 「チャレンジ大賞」をもらえてうれしかった。
- 去年、「ステキで賞」をもらったことを思い出した。
- 高等部に向けて、さらに、台拭きや漢検をがんばろうと思った。
- これからも給食を早く食べられるようにがんばりたい。
- チャレンジ大賞で賞状をもらって、次に新しいこともがんばろうと思った。

☆「チャレンジ大賞」の取り組みについて アンケート結果

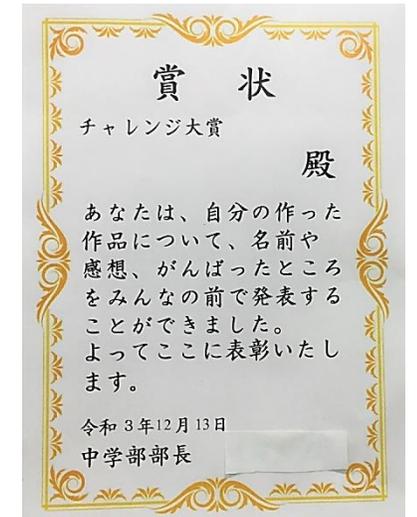
- 生徒が積極的に取り組むことが増えたように思う。
- 生徒や教員にチャレンジする意識がついて、いい取り組みだと思った。
- 「チャレンジ大賞」というネーミングは覚えやすく、生徒に定着しやすかったと思う。
- 賞状をもらい、生徒が喜んでいたので、賞状授与は続けていくとよいと思う。
- 具体的な内容での表彰だったので、一人一人のがんばりや様子がよくわかってよかった。
- 表彰状はよかった。目に見えて分かりやすい。
- 多くの生徒が賞をもらえてよかった。
- オリンピックにちなんだ五輪は分かりやすく、見栄えもよかった。
- 3つ項目があるので順に回せば、全ての学年が3年で3項目こなせるのでよいと思う。

7 実践研究の方法②の結果

生徒に良い行動を具体的にフィードバックする



- 中学部の生徒47名中，47名の生徒全員に，賞状を授与することができ，生徒に良い行動を具体的にフィードバックすることができた。



8 実践研究の方法③

研修で支援法を学んだり事例研究に取り組んだりする

個別の指導計画に関する研修会を実施する
(年間2回以上)

- ・ 全体研修 2回 (5月初旬, 9月中旬)
- ・ 選択研修 1回 (8月25日AM)
- ・ 継続研修 1回 (9月~11月)

全体研修 1 回目

★5月6日（木）

- 課題分析について
課題分析の種類，抽象的な目標を具体的な目標に書きおろす方法
- 強化の原理について
生徒の適切な行動を増やす方法
- 自立活動の時間における指導について
自立活動の時間における指導の指導内容について

全体研修 2 回目

★9月中旬

8月25日の研修に出ていない方が参加

- 記録の取り方について
- 指導計画立案シートの書き方について

選択研修

★8月25日 9：00～11：30

- 個別の指導計画の作成と活用のための研修

個別の指導計画を作成する手順を，演習を通して身につける

1. 子どもの問題を書き出す
2. 問題を整理する
3. 指導目標を見つける
4. 具体的な短期目標を設定する
5. 問題の原因をたくさん推定する
6. 原因に対応した解決策を書く
7. 指導の手立てを書く
8. 記録表を作成する

継続研修（自主研修）

★ 9月～12月

対象者：8月25日の選択研修に参加した方（教員11名，チーム数7）

月 日	題 目	内 容
9月～10月上旬	・ ベースライン記録 スタート	指導前の，指導目標に対する生徒の行動を記録する
10月上旬～11月上旬	・ 指導スタート	手立てにそって指導に取り組み，指導目標に対する生徒の行動を記録する
12月	・ 指導の結果をまとめる	指導の結果をグラフ化したり，結果と考察をスライドにまとめたりする

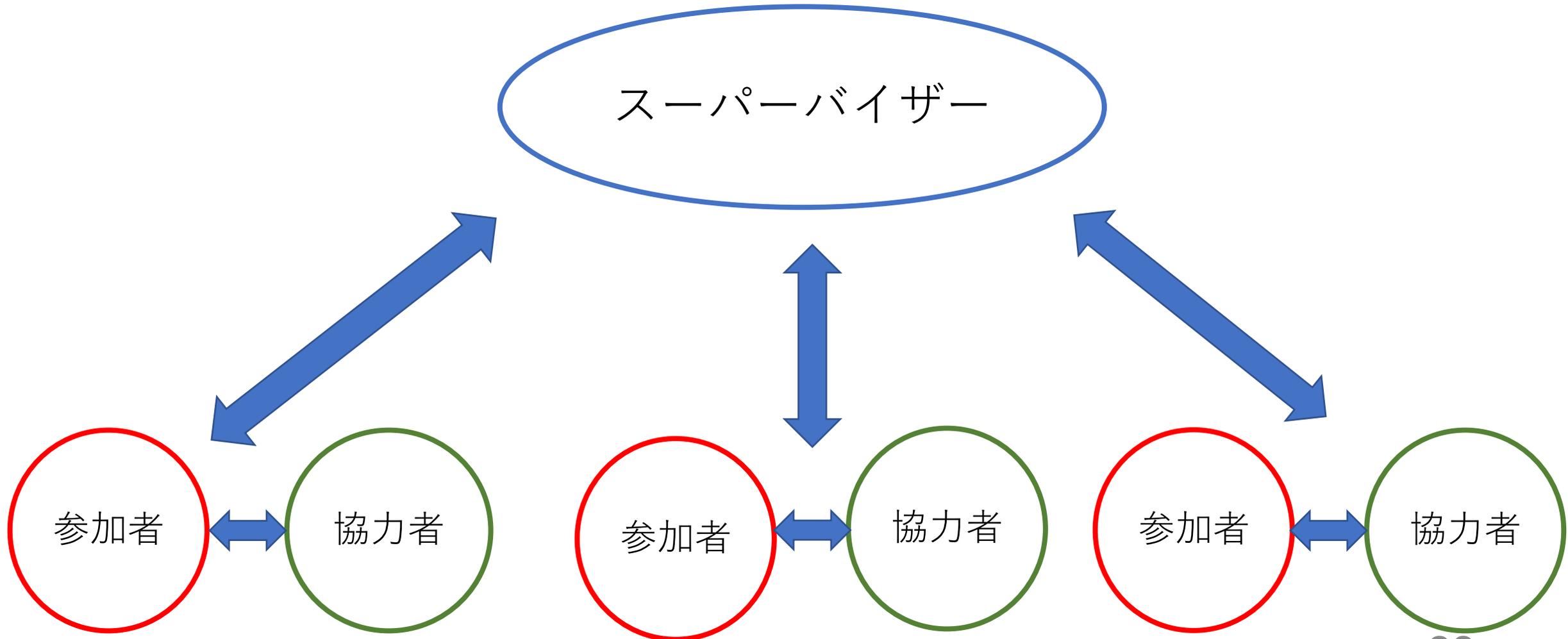
※継続研修・・・8月の研修で立案した指導計画に基づき，事例研究に取り組む
8月25日と12月上旬に事前事後アンケートを実施

継続研修の方法

- 参加者は、協力者と一緒に事例研究を進める。
- 協力者は、参加者と一緒に事例研究を進める。
(記録や進捗状況の確認, 助言, 動画を撮る 等)
- 参加者と協力者は、週に1回程度、事例の進捗状況をスーパーバイザーに伝える。
- スーパーバイザーは、参加者と協力者に事例についてアドバイスをする。
※アドバイス→記録の取り方, 記録のグラフ化, 記録表とグラフの読み取り,
事例研究のまとめ方 等
- 将来的に、協力者がスーパーバイザーに、参加者が協力者になり、スキルアップを図っていく、協力者やスーパーバイザーを増やしていく。

継続研修のサポート体制

※協力者とスーパーバイザーが、
参加者をサポートする



☆継続研修 事例の指導目標と、目標を達成したかどうか

指導目標	目標を達成したかどうか (R4.2.4現在)
①音楽を聴き，笑顔や発声で気持ちを表出したり音源の方へ視線を向けたりすることができる	達成できなかった
②教室の時計を見て，5分前に授業の準備を行うことができる	指導中
③給食台を布巾で拭き残しなく拭くことができる	達成した○
④お椀を正確に持つことができる	達成した○
⑤給食後，鏡を見て，口の周りを拭くことができる	達成できなかった
⑥小1程度の文章問題を1人で解くことができる	達成した○
⑦靴・靴下をはいたまま最後まで給食を食べることができる	達成した○

☆継続研修 事前・事後アンケート結果① (数値)

参加した教員11名に、事前事後アンケート（11項目）を実施し、研修を受ける前と受けた後でスキルがアップしたかどうか確認した

	3点→2点	3点→1点	2点→1点	1点→0点	0点→1点	0点→3点	1点→2点
①子どもの問題を書き出すことができる	1	1					
②子どもの問題を整理することができる	1		2				
③指導目標を見つけることができる	1		3				2
④具体的な短期目標を設定することができる	1		1				2
⑤問題の原因をたくさん推定することができる	2		2		2		
⑥原因に対応した解決策を書くことができる	1				1		1
⑦指導の手立てを書くことができる	1	1			1		1
⑧記録表を作成することができる	1				4		3
⑨子どもの行動を記録することができる	1				1	1	1
⑩記録をグラフにすることができる	1		1		2		
⑪記録やグラフから、子どもの行動を分析することができる	1				2		1

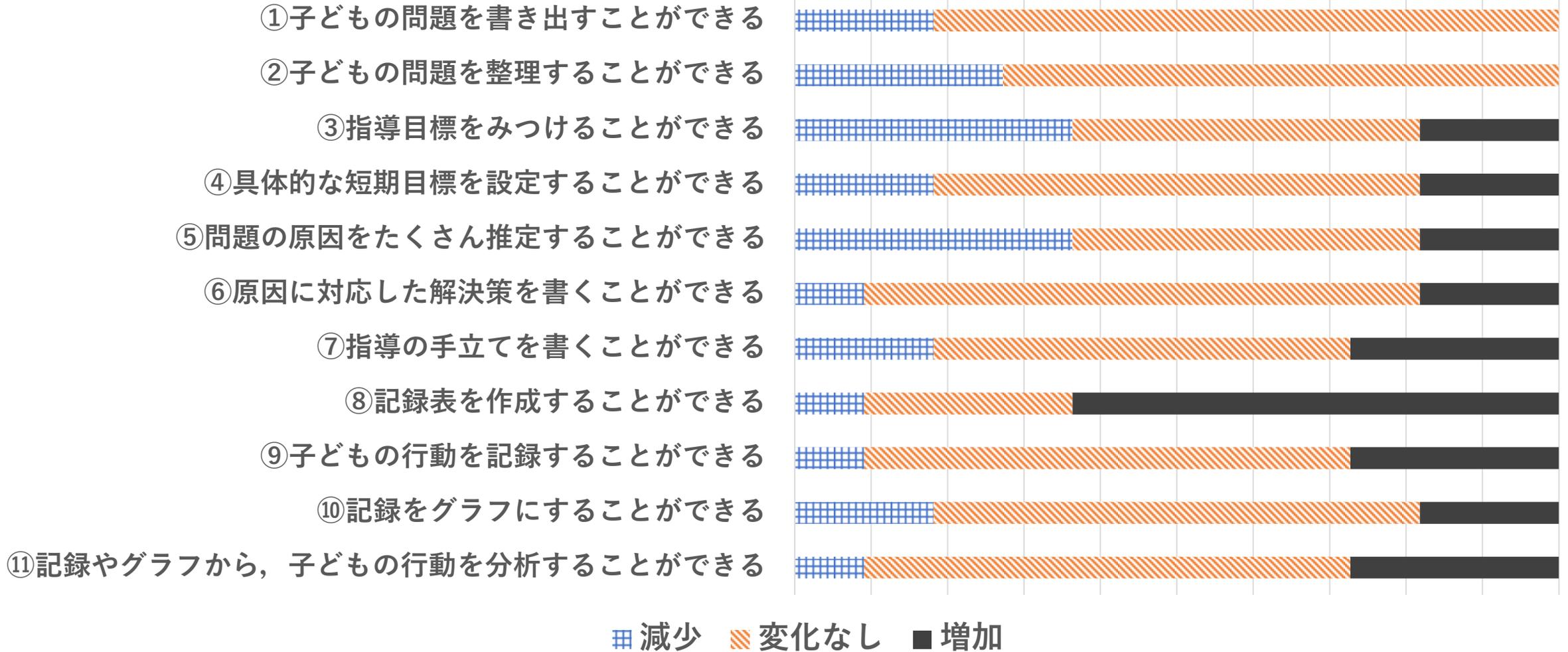
点数が下がった

点数が上がった

できる…3点, ほぼできる…2点, 少しできる…1点, できない…0点, 数字は人数

☆継続研修 事前事後アンケート結果②（割合）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



「⑧記録表を作成することができる」の上昇率が高かった

☆継続研修 事前事後アンケート結果③

事前事後アンケート11項目中

1項目点数上昇↑	1名
2項目点数上昇↑	3名
3項目点数上昇↑	4名
7項目点数上昇↑	1名
点数かわらず	1名
全ての項目で点数下降	1名

点数が上昇した項目や数は個々に異なるが、11名中、9名の教員が、いずれかの項目で点数が上昇した

☆全体研修， 選択研修， 継続研修 アンケート結果

- 課題分析の仕方等を改めて学ぶことができ勉強になった。
- 強化の原理について様々な知識を学ぶことができてよかった。
- 指導目標を立てる上での方向性や見立てに役立った。
- 個別の指導計画の書き方を再度見直すきっかけになった。
- 生徒の実態を改めて考えるいい機会だった。
- 指導計画を書くことができるシートがあり，書きやすかった。
- 個別の指導計画の詳しい内容について理解することができた。
- 継続研修において，クラスで担任同士で相談しながら事例に取り組めたことが良かった。クラスの担任同士で生徒の指導をすることができた。
- 記録の取り方，手立ての考え方等，教えていただき，とても勉強になった。
- 今年取り組みや課題が「行動目標設定表」の見直しや個別の指導計画との関連性を見直す機会になったと思う。

9 実践研究の方法③の結果

研修で支援法を学んだり事例研究に取り組んだりする



- 年間4回、個別の指導計画に関する研修会を実施し、中学部の全教員が、研修会に2回以上参加した。
- 継続研修に11名の教員が参加し、参加者7名が、それぞれの協力者4名とスーパーバイザーと一緒に指導目標と指導の手立てを立案し、事例研究に取り組んだ。
7事例のうち、3事例で改善がみられた。
1回の事例研究で大幅なスキルアップは難しかったが、事前事後アンケートの結果から、今回の事例研究で焦点をあてて取り組んだ項目（記録表を作成することができる）で、スキルがアップしたことが推測される。

10 来年度に向けて①

★方法

- 全教員が行動目標設定表より「チャレンジしよう」に関連する項目で、指導目標を設定して指導実践に取り組む
- 教員間で共通理解を図って、全生徒へ支援を行う
- 生徒に、良い行動を具体的にフィードバックする

★目的



中学部全生徒の、主体的に自分の役割を果たしたり新しいことにチャレンジしたりするスキルの向上を目指す

- 学部で共通した目的のもと取り組む個々の指導実践，教員間で共通理解を図って生徒の支援を行うこと，生徒に良い行動を具体的にフィードバックすることが，生徒の主体的に自分の役割を果たしたり新しいことにチャレンジしたりするスキルの向上につながる
- 今後も続けていく

★来年度に向けて

- 継続すること（個々の指導実践，事例検討会の実施，生徒に良い行動のフィードバック）
- 検討すること（来年度，行動目標設定表の3つのテーマのうち，どのテーマで指導実践を行うか，次回の学部研修会で決定する）

10 来年度に向けて②

★方法

- ・研修で支援法を学んだり事例研究に取り組んだりする

★目的



教員のスキルアップを図る

- ・支援法を学んだり,事例研究に取り組む指導目標達成へと導いたりすることが,教員のスキルアップにつながる
- ・今後も続けていく

★来年度に向けて

- ・継続すること（研修会の実施，継続研修）
- ・改善・検討すること（研修会の内容で難しかったところの改善，研修会の内容の検討，必要な研修会の追加）

を整理し，来年度の研修に生かしたい